



LDK

杉の丸太をそのまま使った吹き抜け天井は大迫力。杉板をふんだんに使った壁も両サイドに窓を設けることで明るさをキープ。



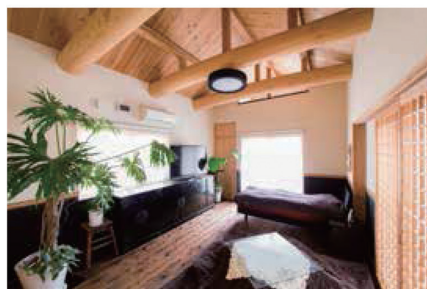
廊下

収納は、渡り廊下のように中庭を望む廊下部分に設置。浮造りの床板と格子戸が中庭にマッチしている。



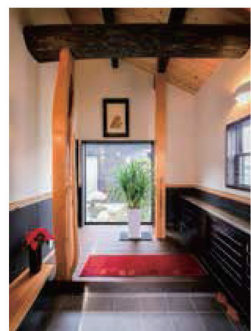
リビング～和室

リビングの一角には和室もあり、扉を閉めることで来客時には客間としても使用できる。



寝室

明るさは保ちながら睡眠を妨げる光が直接入らないよう計算し、軒の先まで壁を伸ばし窓を設置している。



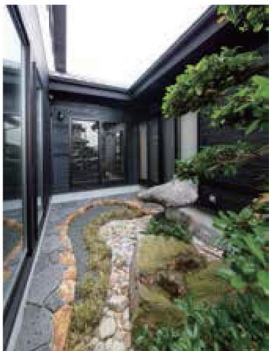
玄関

座って靴が履けるようベンチを設置。立ち上がる時につかまれるよう、柱には手すりを付けてもらい安全性にも配慮。



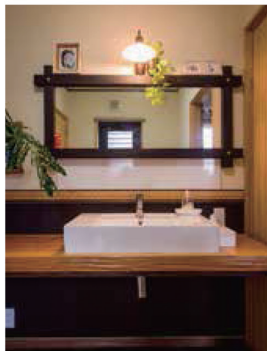
外観

外壁はどうしても焼杉板の黒にしたかったというNさん。念願叶って和風ななかにもモダンさのある外観に仕上がった。



中庭

明かり採りにも最初から願っていた中庭は、前の家で使っていた石などを配置。同じものでもまったく違う雰囲気仕上がった。



洗面

以前使っていた三面鏡の鏡を洗面所の鏡にリサイクル。こうした気遣いが白川建設を選んでよかった点という。

夢を叶えた家



和の心地よさを盛り込んだ
明るくモダンな杉の木の家

建て替えが決まった際、木の家にこだわり施工会社を何社も回ったというNさん。広島や南予まで話を聞きに行ったが、納得できる施工会社には出会えなかったという。そんな折、前から気になっていた地元の白川建設を訪ね話を聞いた所、木に対する深い知識と技術、そして何より温かい人柄に「希望の家を建ててくれるのはここだ」と直感。当初、心配していた予算面も思っていたほどではなく、他社と変わらない価格だったことも決め手となった。実際、建設にあたり、本当に細かいところまで気を使って建ててくれ、希望通りの家に仕上がったという。「外観、内観はイメージ通り。住み心地は満点です」と笑うNさん。憧れの杉の家が完成した。

② 更なる強度を実現
木摺り工法

日本でも古くからある工法で、家中の壁の下地にバラ板(桧)を貼る工法です。面構造で地震の揺れにも対応。板と板の間に隙間があることで、揺れを吸収して逃します。耐力数値も0.5付加されます。



③ ダクト式熱交換システム
PM2.5をガード！
より快適な室内環境を目指して

弊社ではダクト式熱交換システムを採用しています。給気・排気ともに機械的に換気を行うシステムのことです。給気フィルターユニットがPM2.5等外気汚染物質の侵入を防ぎ、室温に近づけて導入するため、安全な空気環境と、快適な温度を保つことができます。EH2工法の完成度を更に高める熱交換換気システムです。

④ エアコンの仕事を減らす窓
樹脂サッシ

夏、室内へ流れ込む熱の約7割は窓から入ってきます。また、冬に暖房で暖められた熱の約半分は窓から失われます。「部屋の居心地は窓の断熱化で変わる」という理由がここにあり。弊社の採用している樹脂サッシは、国内最高基準の断熱性を誇り、高い省エネ効果を発揮しています。



- ① 遮熱断熱Low-Eガラス(アルゴンガス入り)
通常のペアガラスの中間層(空気層)の中には乾燥空気が入っていますが、遮熱断熱Low-Eガラスに入っているアルゴンガスは、乾燥空気と比べ1.5倍も熱を伝えにくく、断熱性能が高められます。
- ② 樹脂だから結露の発生を軽減します
樹脂の熱の伝わりは、アルミの約1,000分の1。室内外の温度差で生じる結露を大幅に軽減します。

⑤ 30mmの杉無垢材仕様の
ネダレス2重貼工法

床の下地材に杉無垢材30mmを使用し、更に仕上げ材(選択可能杉・桜・檜などの無垢材。またはフローリング)を貼る2重構造です。杉は日本の風土・気候にも適した素材で、特に調湿性、断熱性に優れています。またしっかりとした厚みの杉材を床に敷き詰めることで、水平力の強化にもつながります。

